

変貌する住宅地



西東京市の一番南、玉川上水と五日市街道が並行して走っているすぐ北側にある住宅地がわが自治会の管内となる。この5年程前ぐらいから会員の出入りが増え、特にこの1年程は頻繁である。当自治会もご多分にもれず会員の高齢化が顕著であるが、従前は亡くなってから、相続にもなつて家を潰して更地にして売却するものが多かった。しかしこのところ高齢化して施設に入ると同時に売却するケースが増えている▼不動産屋が高齢者の一人住まい等に足を運び、事前にアドバイスや相談に乗ったりしているのか、家を離れた途端に建物は取り壊されて更地にされ、間もなく新築物件が建てられ、これまで1軒あった土地に2軒、3軒が建つ。これにもなつて世代は大きく交代して子どもの数の増加は著しい▼以前は新築ではなく住宅を改修して住むことも多かったが、最近はずべて新築。庭はコンクリートで固め大半は駐車場。プランターで花を置いてはいるところは多いが、花木の植え込みはあっても1本程度。まして生け垣なるものは過去の遺物と化している▼その新築される住宅の最近の特徴は窓がほとんどなく、あつても2階部分に少しあるだけ。閉鎖的で人を寄せ付けない構造であるだけでなく、風が通り抜けるわけもなく、空調と空気清浄機等での調節がもつぱら。洗濯物や布団を外に干す家も減ってきた。しかもこの1、2年の傾向であるが家の外観を黒一色にするものが増えるなど、住宅地の景観は様変わりしつつある▼そして子どもの数は増えているはずが、外で遊んでいる子どもを見かけることは少なく、特にマンションからは子どもの声もめつたに聞こえてこない。景観の変化とともに、人の行き来も減つて、地域コミュニティは貧困化するばかりだ。

(土着菌)